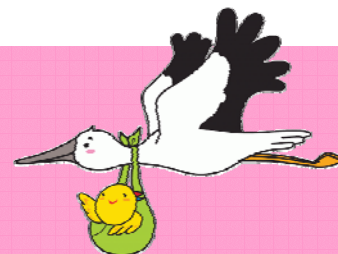


# 子ども未来通信 4月号

[http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08\\_000000002.html](http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08_000000002.html)



## ■イタリア家族政策大臣が県を表敬訪問（4月25日）

「イタリアの春」キャンペーンで訪日中のイタリアのロージ・ビンディ家族政策大臣が井戸知事を表敬訪問。兵庫県公館で行われた対談で、知事が「兵庫県は少子対策本部を設置し、男女の出会いの場づくり、子育てを終えた方の研修を含めた再就職支援、企業との子育て応援協定の締結や事業所内の小規模保育所の設置支援などニーズに応じたきめ細やかな政策を展開している」と紹介。



井戸知事

ビンディ大臣

ビンディ大臣は「少子・高齢化問題は深刻な課題。イタリアでは兵庫県と同様に若者の結婚・就業・住居の支援や、子どものいる家庭への経済的支援、仕事と家庭の両立支援等を行っているほか、家庭内の高齢者支援、人口減少に対する移民支援等に取り組んでいる」と紹介。今後、両者で少子化問題に対する相互理解を深め、課題解決に向け情報交換などを行うことが確認されました。

## ■「認定こども園」がスタート！

「認定こども園」の認定第1号となる12施設に3月30日、兵庫県公館で認定書が交付されました。交付式で井戸知事は「保育所・幼稚園がそれぞれのポジションを持ちながら、就学前の教育・保育の新たな枠組みをつくる実験が認定こども園で始まった。兵庫県は12施設を認定したが、これは他府県に比較しても圧倒的に多い数と聞いており、兵庫県の幼稚園・保育園に全国のモデルを作り上げていただきたい。」とあいさつしました。（問）県児童課 078-362-3199



## ■国際ソロプチミスト神戸がチャリティバザーの売上げを県に寄附（3月29日）

「子どものいのちはみんなの宝」を合い言葉に奉仕活動に取り組んでいる国際ソロプチミスト神戸（フロイドリーブ上原へら会長）が「子育て支援と虐待防止への協力」をテーマにポートピアホテルでチャリティバザーを行い、収益を県と神戸市内の児童養護施設に寄附。バザー終了後、県・森少子局長が上原会長に知事の感謝状をお渡し、児童養護施設の代表からは、子どもたちが寄せ書きした感謝状が贈られました。

この寄付は、県中央こども家庭センターで野球やバスケットなどのスポーツ用具と映像機器などに、県立こどもの館で木製の遊具を購入するために活用されます。また、神戸市内の児童養護施設には大時計が寄贈されます。（問）県児童課 078-362-3199



## ■県が少子対策の体制を強化（4月1日）

### ○児童課こども安全官の設置

児童相談件数の増加や相談内容の困難化等を踏まえ、ドメスティック・バイオレンスも含めた家庭問題を背景とした事案に迅速かつ確に対応するため、県は健康生活部少子局児童課に「こども安全官」を設置。

初代の安全官に就任した中村博・前姫路こども家庭センター所長は「関係機関・団体や子育て応援ネット等と密接な連携をとり、児童虐待防止等への積極的な展開を図っていきたい」と就任の抱負を語っています。

### ○児童課参事(調整担当)の設置

幼稚園所管課(企画管理部教育・情報局教育課)と保育所所管課(児童課)の緊密な連携の下に認定こども園の認定審査等を行うため、児童課に参事(調整担当)を設置し、教育課長が兼務します。

## ■市町の少子対策の体制強化

宝塚市が子ども未来部を設置し、加西市、加東市や南あわじ市が少子対策(次世代育成対策)の主管課を設置するほか、豊岡市と福崎町が少子対策を教育委員会に移管するなど、多くの市町で少子対策の体制強化等が図られました。

(下表の黄色が 19 年度に組織改正等が行われた市町)

地域	市町	担当組織	備考(18年度担当)	地域	市町	担当組織	備考(18年度担当)
神戸	神戸市	保健福祉局子育て支援部		中播磨	姫路市	健康福祉局福祉部子育て支援室	
阪神南	尼崎市	健康福祉局児童福祉部子ども青少年企画課	同 児童企画課		神河町	住民生活課	
	西宮市	健康福祉局子ども子育て企画グループ	同 子育て支援グループ		市川町	健康福祉課	
	芦屋市	保健福祉部子ども課			福崎町	教育委員会学校教育課	住民生活課
阪神北	伊丹市	子ども部子ども室子ども企画課		西播磨	相生市	市民福祉部子育て支援室	
	宝塚市	子ども未来部子ども室子ども政策課	健康福祉部子ども室子育て支援課		たつの市	健康福祉部児童福祉課	
	川西市	健康福祉部すこやか子ども室			赤穂市	健康福祉部子育て健康課	
	三田市	健康福祉部子育て支援課			太子町	生活福祉部社会福祉課	
	猪名川町	生活部福祉課	住民生活部健康福祉課		上郡町	健康福祉課	
東播磨	明石市	福祉部子ども室子育て支援課	健康福祉部子ども室子育て支援課	但馬	佐用町	福祉課	
	加古川市	福祉部子ども支援局子ども課			宍粟市	福祉部社会福祉課	
	高砂市	福祉部児童福祉課			豊岡市	教育委員会子ども育成課	健康福祉部子育て支援課
	稲美町	健康福祉部地域福祉課			養父市	福祉部福祉課	
	播磨町	福祉グループ			香美町	健康福祉部福祉課	
北播磨	西脇市	福祉生活部児童福祉課		新温泉町	福祉課		
	三木市	市民ふれあい部子育て支援課	健康福祉部子育て支援課	朝来市	健康福祉部社会福祉課		
	小野市	市民福祉部子育て支援課		丹波	篠山市	福祉部子ども未来課	保健福祉部子ども未来課
	加西市	市民福祉部子育て支援課	社会福祉課		丹波市	福祉部少子課	
	加東市	福祉部子育て支援課	福祉部地域福祉課	淡路	洲本市	健康福祉部福祉課	健康福祉部企画管理課
	多可町	子ども課			淡路市	健康福祉部社会福祉課	
				南あわじ市	健康福祉部少子対策課	健康福祉部福祉課	

## ■ファミリーサポートセンターの活動の輪が広がっています！

「ファミリーサポートセンター」は、市町が設立・運営し、“育児の援助を受けたい人”と“育児の援助を行いたい人”とがお互いに会員になって、子育て中の人や働く人の家庭を地域で支えるシステム。新たに、尼崎市、高砂市、加東市、淡路市においてセンターが設置され、県内のセンター数が24ヶ所となりました。

### ●ファミリーサポートセンター設置市町(24市町)

神戸市、尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町、三木市、小野市、加東市、姫路市、相生市、たつの市、赤穂市、宍粟市、篠山市、丹波市、淡路市

(問)：県少子対策課 TEL078-362-4186

## ■市町の女性チャレンジひろばがさらに拡大！

結婚や出産、介護などを機に退職した女性などの仕事や社会へのチャレンジを総合的に支援するため、ワンストップでの情報提供・窓口相談などを行う女性チャレンジひろばが、新たに19年4月に神戸市と伊丹市で開設されました。19年度内にさらに開設が予定されています。

### ●女性チャレンジひろば開設市町：神戸市、尼崎市、西宮市、宝塚市、伊丹市、加古川市、赤穂市、朝来市(計8市)

(問)：県立男女共同参画センター TEL 078-360-8550

## ★不妊治療費の助成を拡充

兵庫県では体外受精、顕微授精を受けられた夫婦に、治療費の助成を行っています。本年度から、助成額を1年度あたり10万円上限から、治療1回あたり10万円を上限に年度2回までに拡大、あわせて所得制限を夫婦合算650万円から730万円に緩和し助成の拡充を図りました。

### ●事業内容

- (1) 対象治療法：配偶者間の体外受精及び顕微授精(特定不妊治療)
- (2) 助成の対象者：兵庫県内に住所を有する法律上の夫婦
- (3) 所得制限：夫婦の合算所得730万円未満(申請が1~5月までは前々年、6月以降は前年所得)
- (4) 給付の内容：治療1回あたり10万円上限、年度2回まで、通算5か年支給
- (5) 医療機関：指定医療機関

### ●申請期限 治療終了後3か月以内

(問) 県健康増進課保健指導係(078-362-3250)

## ■ “子育て応援・関西キャンペーン” のシンボルマークとキャッチフレーズを募集

近畿ブロック知事会の合意に基づき、関西の自治体や企業等が協働し、社会全体で子育てを応援しようと標記のキャンペーンがスタート。現在、キャンペーンのシンボルマークとキャッチフレーズ(事業愛称)を募集しています。このシンボルマークなどは、キャンペーンで予定されている「近畿子育て家庭支援事業(仮称)」などでも使用される予定です。

- 募集期間：平成 19 年 5 月 10 日まで
- 募集内容：子育てを社会全体で応援するイメージを表したシンボルマークとキャッチフレーズ(事業愛称)
- 賞品：シンボルマーク、キャッチフレーズとも最優秀賞(採用作品)1 点ー賞状・賞金 10 万円
- 応募方法：関西広域連携協議会のホームページから申込用紙をダウンロードし、必要事項を記入して応募ください。
- 問合せ先：関西広域連携協議会 06-4803-5573、<http://kansai.gr.jp/kc>

## ★「東播磨子育て支援情報」発刊

東播磨県民局が 3 月末に「東播磨子育て支援情報」を発行。東播磨地域のまちの子育てひろばマップ、親子の交流の場、各種の子育て支援制度、障害児への支援や救急の窓口等が掲載されており、授乳中や家事の合い間にも利用できるよう防水加工が施されており、市町で母子健康手帳と同時に配布します。

※希望者には東播磨県民局から郵送配布します。希望者は住所、氏名を記載し、140円切手を同封の上、下記宛に送付してください。

〒675-8566 加古川市加古川町寺家町天神木 97-1

東播磨県民局加古川健康福祉事務所企画課 TEL079-421-9292 FAX079-424-9977

## ★お母さんのための再就職準備セミナー参加者募集

「働きたいけど、どうすれば?」「子どもが小さいから不安で…」今できることから始めてみませんか? あなたの不安や悩みを解消し、チャレンジを応援します。(受講料無料)

- 場所:兵庫県立男女共同参画センター(神戸クリスタルタワー8F:JR 神戸駅前)
- 日時:6月 19 日(火)から7月 17 日(火)までの毎週火曜日、午前 10:00~12:00
- 講師:広野 史子(キャリアアドバイザー)
- 対象:兵庫県内在住で子どもを持ち、再就職を希望している女性
- 一時保育:原則1歳半から就学前まで(無料・要予約・先着 10名まで)



(問)：県立男女共同参画センター TEL 078-360-8550

## ★幹事会だより (NPO と行政の子育て支援会議) ★

支援会議では、病児保育をテーマに第 1 回の会員交流会を行います。病児保育は昨年 8 月の支援会議設立フォーラムでも関心を集めたテーマで、このたび、NPO 法人・キッズネストの片山理事長(支援会議代表幹事)のご協力を得て、病児保育室「プエリ」の見学や交流会を行うこととなりました。

- ・日時：平成 19 年 5 月 17 日(木) 13:30~15:00
- ・場所：病児保育「プエリ」(JR 灘駅南、徒歩 5 分)



## ※編集部からのお知らせ

「子ども未来通信」は、市町、企業、商工会議所・商工会、青年会議所、地域団体・NPO や県関係機関など、1,000 機関以上の皆様に原則として電子メールにより配信しています。新たに配信を希望される方は、下記アドレスに「子ども未来通信・配信希望」と送信ください。

兵庫県少子対策本部事務局(健康生活部少子局少子政策課)：E-mail:[shoshiseisaku@pref.hyogo.jp](mailto:shoshiseisaku@pref.hyogo.jp)



## 市町、企業、団体の活動紹介

## まちの子育てひろば“やんちゃんこ”（尼崎市）

「ノリのいい子を育てたい。」濱田英世さん（やんちゃんこ代表）が、小学校で教師をしていた時に感じたことです。いろいろな物を見て発見する喜び、いろいろな事を体験する楽しさ、そして何かを想像し、創造していく力。そんな世界をお母さんと一緒に味わってほしいと願い、やんちゃんこ子どもになるようにと「やんちゃんこ」という名のサークルが作られました。

少子化が進む中、お母さんが悩みを一人で抱えこんだり、あふれすぎる情報に振り回されている状況が増えてきています。やんちゃんこは、子ども達との活動を主にしながら、お母さんの支援もしようと、子育てのアドバイスや、お母さんの悩みをできる限り聞き、安心してもらえる時間を大切にしています。季節の行事はもちろんのこと、読み聞かせやリズム遊びなどを通して楽しく子育てができるようにと、日々活動されています。



## ㈱大丸神戸店（神戸市）

百貨店、そして企業・大丸として社会に貢献できることは何なのか？という問い掛けから、安心して出産・育児ができる地域づくりのお手伝いをしようと、本年度を「育児環境を考える」元年として、大丸本社内に「育児マーケットプロジェクト」を立ち上げました。その具体的な活動の一つとして、「育児を考えるフォーラム」を3月から10月まで計10回、大丸神戸店を主会場に、健全な育成に関する研究・商品づくりで定評のあるメーカー「アプリカ葛西」と共同で、学識経験者や現役の医師によるセミナーや参加・体験学習会等を開催。その総決算として10月31日(水)～11月4日(日)に大丸神戸店9階特設会場にて、「育児を考えるフォーラム総合フェア」を開催します。



3月25日に開催した第1回フォーラムには、定員を超える応募があり、参加者は熱心に東京女子医科大学小西行郎先生による「脳と心を育てる遊び方教室」と題した講演に耳を傾けていました。大丸ではCRS(企業の社会的責任)の一環として、次年度以降も継続してこうした取り組みを進めていきます。

※フォーラムの申込は、大丸ホームページまたはお葉書で。

抽選の上、当選者に通知いたします。<http://www.daimaru.co.jp/ikuji/>

## 幼児期における運動遊び事業（豊岡市）

豊岡市では、松本短期大学(長野県)の柳沢秋孝教授考案の「柳沢運動プログラム」に基づき、子どもたちが無理なく楽しく身体を動かすことにより、心身ともに健やかに成長できるよう幼児期における「運動遊び」事業を推進しています。

平成18年度は、指導者育成のため市職員を6ヶ月間同大学に派遣するとともに、11月から事業を試行的に展開するため保育園や幼稚園を巡回訪問しました。19年度からは市内の全ての保育園と幼稚園に本格的に導入したうえで、指導者の養成や事業効果の検証を行っていきます。



## ※編集部からのお願い

「市町、企業、団体の活動紹介」は、皆様の投稿をもとに作成しています。掲載を希望される方は下記にご連絡下さい。

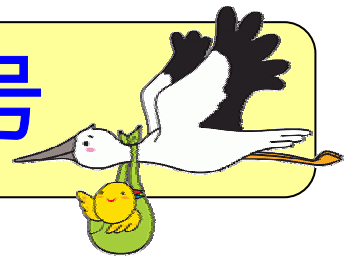
兵庫県少子対策本部事務局：〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1

(健康生活部少子局少子政策課) TEL:078-362-4232 FAX:078-362-3011

E-mail:shoshiseisaku@pref.hyogo.jp

# 子ども未来通信 5月号

[http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08\\_00000002.html](http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08_00000002.html)



## 商工中金が「ひょうご子育て・男女共同参画応援企業ローン」を創設（6月1日）

子育て支援や女性の社会進出に貢献している企業を応援するため、商工中金が県と「子育て応援協定締結企業」及び「男女共同参画社会づくり協定締結企業」を対象にした、「ひょうご子育て・男女共同参画応援企業ローン」を創設しました。当ローンは、運転資金や設備資金の貸出金利を全国初の取り扱いとして、「ひょうご中小企業技術評価制度」で一定の評価を受けている企業に0.1%優遇するなど、通常のコストより最大0.3%優遇されます。県では、当ローンを企業等に周知し、子育て応援協定及び男女共同参画社会づくり協定の拡大に活用します。

(問) 商工中金 078-391-7541

## 生活あんしんステーション HIMEJI がオープン（5月13日）



労働者福祉の向上を図る活動を展開している兵庫県労働者福祉協会が中心となり、育児と仕事の両立など、近年複雑かつ多様化している人々の悩みに、ワンストップで応える相談窓口として、姫路労働会館に、「生活あんしんステーション HIMEJI」が開設されました。5月13日の開所式には、北条連合兵庫会長、大森姫路労働者福祉協会会長や、齋藤兵庫県副知事、米田姫路市副市長、池田兵庫県経営者協会会長などが出席。出席者からは、勤労者の心強い相談窓口ができたとの期待が寄せられました。相談は無料、どなたでも利用できます。

(問) 生活あんしんステーション HIMEJI 079-226-1105

## お父さんの子育てふれあいサロン - 姫路市社会福祉協議会安室東支部

姫路市社会福祉協議会では、ボランティアによるひとり暮らしの高齢者等の見守り活動や、子育て支援事業などに広く取り組んでいます。安室東支部では、毎月第1木曜日に“子育てふれあいサロン”を開催してきましたが、父親に参加いただくため、5月20日(日)に「パパと遊ぼう」と題して、日ノ本短期大学の山羽小百合教授を講師に迎え、71人の親子がリズム体操や親子体操を楽しみ、参加者からは、「子どもの姿を見ずに、仕事しか見ていないことがわかった」との声が寄せられました。支部長の西川裕之さんは、「日曜日の開催は、『父親も参加できるものを』との声を受け、さっそく始めたもの。民生委員児童委員、ふれあい給食ボランティア、自治会の方々など、大勢の協力を得て、チームワークも抜群。この積み重ねにより、地域の発展につなげていきたい」と語りました。

(問) 姫路市社会福祉協議会 079-222-4212



## 子育てを応援します！県民局レポート - 淡路地域県・市少子対策協働会議を開催 -

淡路地域で少子対策を所管する県・市間の情報共有と相互連携を図るため、4月26日(木)淡路島内3市の少子対策担当課及び淡路県民局・中央こども家庭センター・淡路教育事務所等職員計17名による会議を開催。淡路地域における少子化の現状や、県・市の19年度新規事業についての意見交換のほか、市の結婚促進策と県の出会いサポート事業や、こうのとりの会との連携、子育て支援自主グループの育成、保健センター乳幼児健診時における子育て情報提供などについて県・市が連携して取り組むことを確認しました。



## 県・市町少子対策協働会議を開催（5月24日）

県と市町が協働して少子対策を推進するため、県・市町少子対策協働会議を開催。今回から、次世代育成対策担当のほか保育や母子保健担当等も加わり、昨年度の倍以上の総勢130人を超える参集者となりました。会議では、県の主要事業説明のあと、市町からこんにちは赤ちゃん事業など先進的な取り組み事例を紹介。その後、認定こども園や児童虐待対策などのテーマ別に9グループに別れて討議を行い、「新たに認定こども園に取り組むに際し、福祉部局と教育部局との調整が課題になる。」など活発な意見が交わされました。



グループ討議の結果発表

(問) 県少子政策課 078-362-4183

## 出産費用の立替払いが不要に - 19年4月から全市町の国民健康保険加入者に適用

少子対策の一環として、昨年10月に、出産一時金の限度額が35万円に引き上げられるとともに、これまでは、出産費用を本人が医療機関などにいったん払った後で、市町(国民健康保険)などの保険者が本人に払い戻していましたが、保険者が直接、医療機関などに支払う方法(「受取代理」)も可能となりました。どちらの方法を採用するかは、保険者が任意に定めるため、県は市町に受取代理の方法を採用するよう働きかけるとともに医療機関にも協力を求め、4月から近畿6府県で初めて、全ての市町が受取代理を採用することとなりました。

これにより、国民健康保険の加入者は、出産予定日の1か月前までに申請すれば、35万円までの出産費用を立て替える必要がなくなりました。

(問) 県医療保険課 078-362-3207

## 「子ども多文化共生サポーター」を派遣し、日本語理解が不十分な外国人児童生徒を支援

兵庫県には、約130か国、10万人を超える外国人県民が居住しています。県教育委員会では、外国人児童生徒の自己実現と多文化共生教育を推進するため、日本語理解が不十分な外国人児童生徒が在籍する公立学校に、子ども多文化共生サポーターを派遣(5月18日現在、16言語、延べ185人)し、通訳や翻訳によるコミュニケーションの円滑化、生活適応、学習の支援などを行っています。また、芦屋市内の県立国際高等学校内に、子ども多文化共生センターを開設し、教育相談や情報提供、交流事業、研修などを行っています。



(問) 県人権教育課 078-362-3793 子ども多文化共生センター0797-35-3537

## 病児・病後児の保育の推進

保育所に通う児童が発病した際など、医療機関、保育所等で対象児童の保育を行う病児・病後児保育が実施されています。

区分	医療機関型	保育所型		緊急サポートネットワーク事業 (カンガルーネット)
		オープン型	自園型	
実施場所	医療機関	保育所、乳児院等	保育所	児童(利用会員)の自宅または看護師等(サポーター会員)の自宅
対象児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>病気の回復期や微熱を出すなど症状は軽いが、集団保育が困難な児童等</li> <li>保育所に通う児童</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>病気の回復期や微熱を出すなど症状は軽いが、集団保育が困難な児童</li> <li>保育所に通う児童</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育所において微熱を出すなど体調不良となり、保護者が直ぐに引き取りに来られない児童</li> <li>当該保育所に通う児童</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育所での急な病気等で、保育所での保育が困難な病児</li> <li>病気の回復期で、保育所に預けることにより再発の心配のある病後児等</li> <li>保育所に通う児童で、あらかじめ登録している利用会員</li> </ul>
利用期間	保育所に預けることができるまでの期間	保育所に預けることができるまでの期間	保育中に児童が体調不良となった当日	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育中に児童が体調不良となった当日</li> <li>保育所に預けることができるまでの期間</li> </ul>
実施市町 ( )箇所数	神戸市(6)・尼崎市(2)・西宮市(1)・宝塚市(1)・三田市(1)	姫路市(3)・明石市(2)・伊丹市(1)・豊岡市(1)・西脇市(1)・高砂市(1)・播磨町(1)	加古川市(3)・朝来市(2)・稲美町(1)・播磨町(3)	順次、尼崎市全域や姫路市等県内に拡大
利用契約	市町に申し込む	市町に申し込む	市町又は保育所に申し込む	利用会員とサポーター会員の直接契約
利用料	1日 2,000円程度	1日 2,000円程度	無料 但し、登園前から体調不良の場合は1日2,000円程度	1時間1,200円程度
開始時期	平成11年4月	平成8年4月	平成19年4月	平成19年2月



## 児童福祉週間事業「お～い集まれ こいのぼりのつどい」(5月12日)

県の児童福祉週間行事として、県下の児童養護施設、乳児院、里親会の児童、職員、その関係者が一同に会し、県立明石公園で、こいのぼりのつどいを開催。約1,100名が参加し、仮装大会や大縄飛び競争などの催しや、施設で元気に過ごしている姿を紹介するパネルの展示やゲームコーナーなどを設け、児童福祉の啓発を行いました。

また、こどもの日には、県立こどもの館（姫路市内）で、「こどもフェスティバル」を開催。約9,400人の親子連れが参加し、保育園児や児童らによる吹奏楽、和太鼓演奏や、よさこい踊りが披露されたほか、5,000個の積み木であそぼう！などの体験活動などが展開されました。

(問) 県児童課 078-362-3198 県立こどもの館 079-267-1153



## 「県立いえしま自然体験センター」オープン(5月3日)



瀬戸内の豊かな自然を残す家島において、「母と子の島」をリニューアルし、自然体験活動に、新たに海の環境学習の機能を付加した「県立いえしま自然体験センター」を開設。豊かな自然を活用した磯あそびやカヤック・ヨット、キャンプなどの自然体験活動プログラムに加え、環境学習プログラムとして、海中観察ができるクリアカヌーや海中探検ゾーン、本物のタコやアナゴに触れるタッチプール、海洋汚染や海の生態系を学ぶ漂着物(ゴミ等)調査や磯の生き物観察や、小・中学生を中心に青少年の環境保全意識を高める体験・実践型の様々な活動を実施しています。

(問)(財)兵庫県青少年本部 078-360-8581

## 大学コンソーシアムひょうご神戸 シンポジウムの参加者募集

テーマ:「子育てをどう支援するか」 日時:平成19年6月17日(日)13:00~16:30

場所:ミント神戸17階(神戸親和女子大学三宮サテライトキャンパス:JR三宮駅前)

主催:大学コンソーシアムひょうご神戸 主管:地域交流委員会

申込方法:氏名 所属 電話番号 メールアドレス又はFAX番号を明記の上、大学コンソーシアムひょうご神戸 地域交流委員会まで e-mail:conso-hyogo-c@kobe-shinwa.ac.jp FAX:078-591-2465

## 「第11期 男女共同参画アドバイザー養成塾 受講生募集(申込締切:6月11日)」

期間:平成19年6月22日(金)~平成19年12月14日(金)の間の計11日間(20回)10:00~16:00

場所:県立男女共同参画センターセミナー室、内容:男女共同参画に関する講義、グループワークなど

対象:県内在住・在勤・在学の男女で、原則全回出席できる方 40名程度(一時保育あり:原則要予約)  
受講料:無料

申込方法:受講申込書と官製葉書(住所・氏名記載)を郵送か持参 <http://www.hyogo-even.jp/index.htm>

(問) 県立男女共同参画センター-企画啓発課 電話 078-360-8550 FAX 078-360-8558

〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-1-3 神戸クリスタルタワー8F

## 編集部からのお知らせ

「子ども未来通信」は、市町、企業、商工会議所・商工会、青年会議所、地域団体・NPO や県関係機関など、1,000機関以上の皆様に原則として電子メールにより配信しています。新たに配信を希望される方は、下記アドレスに「子ども未来通信・配信希望」と送信ください。

兵庫県少子対策本部事務局(健康生活部少子局少子政策課): E-mail:[shoshiseisaku@pref.hyogo.jp](mailto:shoshiseisaku@pref.hyogo.jp)

東加古川子育てプラザオープン（加古川市）



「安心して子どもを生み、子育てに喜びを実感できるまち」をめざす加古川市に2つ目の子育てプラザがこどもの日に、JR東加古川駅近くにオープン。室内大型遊具や、絵本コーナー、就学前のこどもを持つ親子が自由に遊べる室内広場やウッドデッキ、芝生広場、砂場など自然と直接ふれあえる屋外施設をそなえ、親子がともに遊び、交流できる場を提供しています。開館日時は年末年始（29日～3日）を除く毎日、午前9時から午後6時まで。施設の利用は無料。

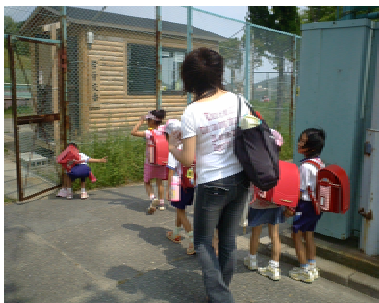
（問）加古川駅南子育てプラザ 079-454-4189

子育て応援隊 ウィズ・ママ（高砂市）

「子育て中のママや子どもにとって、『あったらいいな』という子育て支援を自分達で実現し、他のママの子育てもお手伝いしようと、同じく子育て中のママや先輩ママと一緒に平成14年から『子育て応援隊 ウィズ・ママ』を始めました」と、代表の北野ひとみさん。ここでは、一時保育・まちの子育てひろば、子どもの冒険ひろば、小学生対象の長期休暇中の預かり等を行っており、学童、幼・保育園後の預かり等は、年間400回程の利用があります。また、まちの子育てひろばには年間1,400組の親子が参加、昨年7月開設した子どもの冒険ひろばには、これまで1,500人超の親子が参加。メンバーは、これからも日々変化していく「あったらいいな」をキャッチするため、日々の参加者との出会いや触れ合いの場を大切に活動しています。



NPO 法人神戸西助け合いネットワーク



神戸市立花谷小学校（須磨区）は、通学路が山間の一本道で周辺に民家がなく、不審者の出没情報もあることから、2年前に地元自治会と同ネットワークが、保護者会や花谷、東落合の両ふれあいのまちづくり協議会などに呼びかけ、12団体で「花谷小学校の学童を守る会」を結成。守る会の活動拠点として、昨年の3月に全児童726名中、510名の通学路に「学童交番」を建設し、防犯カメラを設置。保護者を中心に毎日2人一組で下校時の見守りを行うほか、ネットワークカメラを設置し、24時間パソコンや携帯電話で監視し、異常があれば警察に通報でき、同時録画も行っています。同ネットワーク理事長在里俊一

さんは、「私達は子供達の安全を守ることは当然ですが、安全で安心な地域社会をつくりたいと取組んでいます。」と力強く語りました。

幹事会だより（NPOと行政の子育て支援会議）

5月17日に、病児保育をテーマに第1回会員交流会を開催。NPO法人キッズネストの片山理事長が病児保育施設内では感染防止が重要課題であることや、市内の全ての施設が赤字経営であることなどの課題を指摘。

その後、キッズネストが運営する病児保育室「プエリ」の見学と参加者の意見交換が行われた。

（問）特定非営利活動法人さんぴいす

（NPOと行政の子育て支援会議代表幹事）0797-22-8896



編集部からのお願い

「市町、企業、団体の活動紹介」は、皆様の投稿をもとに作成しています。掲載を希望される方は下記にご連絡下さい。

兵庫県少子対策本部事務局：〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1

（健康生活部少子局少子政策課）TEL:078-362-4232 FAX:078-362-3011



# 子ども未来通信 6 月号

[http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08\\_000000002.html](http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08_000000002.html)



## 「保育を高める研究集会」を兵庫県で開催（6月13～15日）

認定子ども園が発足するなど、保育制度が変わりつつある今、保育関係者が子どもの健やかな「こころ」を育むために何をすべきか考えることをテーマに全国から保育関係者約 700 名が参加して、神戸市内で研究集会が開催されました。小林公正・県保育協会長の開会あいさつに続き、来賓として井戸敏三・県知事が、幼児期における子育てのあり方が非常に問われており、子育てのプロの施設としての保育所の役割は大きい、と保育関係者への期待を表明。その後、基調講演等につき、シンポジウムや分科会討議が行われました。



小林・県保育協会長 井戸知事

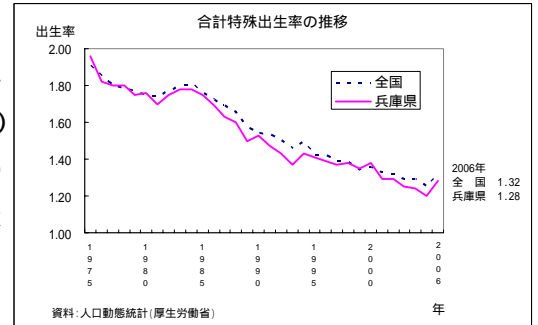
## 「県立いえしま自然体験センター」リニューアルオープン記念式典（6月24日）

県立母と子の島が5月に環境学習機能を充実してリニューアルオープンし、このたび県知事や地元関係者らが出席して記念式典が開催されました。式典では大漁旗を掲げた漁船からセンターの新しい看板が届けられ、知事が緑の少年団とともに受け取りました。センターでは新たに本物のタコやアナゴに触れるプール、生き物観察・研究ができる環境学習センターや、魚が放流されている海中探検ゾーンなどが整備され、子どもから大人まで、楽しく遊びながら学べる海の環境学習の拠点としての役割が期待されています。



## 平成 18 年の合計特殊出生率が 6 年ぶりに上昇

厚生労働省が6月6日に発表した人口動態統計によると、平成18年の合計特殊出生率は、全国が1.32、兵庫県が1.28(全国38位)となり、いずれも6年ぶりに前年を上回りました。但し、出生率の回復には団塊ジュニア世代(32～35才)による出産の増加がかなり寄与しているため、出生率の上昇は一時的なものとの指摘もあり、今後もさらに少子対策を充実強化することが求められます。



## 第1回女性医師フォーラムを開催（6月9日）

女性医師たちが、出産・育児等の期間も診療業務を継続できるような環境や育児支援を考えるため、兵庫県医師会館でフォーラムを開催。基調講演で猪口邦子氏(前少子化・男女共同参画担当大臣)は、「女性が意思決定の段階に参加することが重要」と指摘。シンポジウムでは、就労継続には、上司や配偶者の理解が重要であることや、大学院生・研究生らにも周囲による支援が必要であることが確認されました。



また、パネリストからは、子育て支援として非常勤の医師等を増員したことにより、全職員の勤務条件が緩和され、収益の改善につながった(清野・大阪厚生年金病院長)など、様々な事例が報告されました。

## 県技能士会連合会と子育て応援協定を締結（6月15日）

県技能士連合会と県は、神戸市内で協定を締結。連合会は、優れた技能者を「ひょうごの匠」に認定し、中学校へキャラバン隊を派遣するなどの活動を展開しており、奥田耕作会長は、「協定を契機に、子どもを対象にしたものづくり体験を一層充実し、県と連携して子育て支援を行いたい。」と決意を表明されました。



## 国際ソロプチミスト明石と子育て応援協定を締結（6月18日）

国際ソロプチミスト明石(SI 明石)と県は、明石市内で協定を締結。SI 明石は、児童虐待防止をテーマに、中央こども家庭センターと共同で講演会を開催するなどの活動に早くから取り組んでおり、安藤千鶴会長は、「私達は子どもの幸せを願い、今後とも更なる支援活動を行って参りたい。」と、協定の締結を機に、さらに子育て応援に取り組むことを表明されました。

(国際ソロプチミスト明石 - <http://www.sia-chuo.gr.jp/club/e/e01.html>)



## 兵庫県生活衛生同業組合連絡協議会と子育て応援協定を締結（6月22日）

兵庫県生活衛生同業組合連絡協議会は神戸市内で、県との協定締結に先だって行われた総会で、子育てと仕事が両立できる職場環境の整備、女性等の再雇用の支援、地域における子育ての支援、若者の職業的自立の支援、従業員等の結婚のサポートなど、15の加入組合がそれぞれの協力内容を定め、協議会をあげて少子対策に取り組むことを決議。協定の締結後に、川内恒人会長が改めて、子育て応援に取り組む決意を表明されました。



## ひょうご出会いサポートセンター設立から1年。成婚カップルも誕生

少子対策の重要課題として、社会全体で結婚を応援するため、昨年6月19日に「ひょうご出会いサポートセンター」が開設されて1年が経過。これまでにセンターは、計48回のイベントを開催し、266組のカップルが誕生。6月には1組が成婚の運びとなりました。今後は、出会いサポート事業を県内各地域で行うため、数百名を「このとり大使」に任命し、事業の周知などに協力いただくとともに、市町や企業、地域団体・NPOなどと協働して出会いの場を提供していきます。(問)ひょうご出会いサポートセンター 078-367-3810



## “子育て応援・関西キャンペーン”のシンボルマーク等が決定

昨年11月の近畿ブロック知事会議の合意に基づき、関西広域連携協議会が「子育て応援・関西キャンペーン」のシンボルマークとキャッチフレーズを公募・決定。キャッチフレーズには、県内在住の松下彰さんの「子育てに ゆとり・余裕の環境づくり」が選ばれました。

このシンボルマーク(右図)とキャッチフレーズは、近畿・子育て世帯応援事業(仮称)など、関西の自治体・経済団体等が取り組む様々な事業やイベントで活用される予定です。



## 県民局レポート (丹波県民局) - ひろっぱ お父ちゃんクラブ事業を実施

丹波地域では、子育て中の親子が気軽に集い、情報交換等を行う身近な拠点「まちの子育てひろば」に、育児の重要な役割を果たすべき父親の参加を促進して、ひろば活動の活性化を図ろうと、まちの子育てひろば、ひろばの活動に準ずる自主グループを対象に「ひろっぱ お父ちゃんクラブ事業」を6月から募集。創意工夫を凝らした父親参加事業で、家庭での家事参加や育児参加などを促進する事業を5件選定し助成する予定です。これらの具体的な取組みの成果を発信することにより、家庭における父親の育児参加の重要性を改めて見直し、丹波地域での子育て支援の活性化を図ります。



## 杉の子アルバム贈呈（6月1日）

協同組合兵庫県写真師会は、ボランティア活動として、昭和57年から、児童養護施設に入所している子どもたちが元気に成長する姿を撮影してアルバムに編集し、すくすく育つ杉の子にちなみ「杉の子アルバム」と名づけ、児童養護施設の子どもたちに贈呈してきました。6月1日には、細川・県健康生活部長等の立ち会いのもと、八木・写真師会理事長から善照学園(西宮市)の松本施設長へのアルバム贈呈が行われました。（問）県児童課 078-362-3198



## 国際ソロプチミスト淡路がおむつプレゼントなどの子育て支援

国際ソロプチミスト淡路(会長:木下寿子)は、島内の第3子以上の新生児(平成18年8月1日~19年7月31日に誕生)を対象に紙おむつの引換券を配布し、ドラッグストア「ハートランド」でおむつをプレゼントする事業を実施しています。また、6月3日には、「親と子のふれあい広場」を淡路ワールドビレッジで開催。小学生以下の子どもと保護者220人が参加し、食育をテーマにした講義のほか、流しそうめん、竹馬遊びなどを楽しみました。このほかにも、着衣水泳教室など様々な事業を企画・実施されています。



(問) 国際ソロプチミスト淡路 [http://si-awaji.org/blog/2006/10/post\\_3.html](http://si-awaji.org/blog/2006/10/post_3.html)

## 不登校の子どもたちを支援 - 県立但馬やまびこの郷が各種プログラムの参加者を募集

県立やまびこの郷は、子どもたちが提示する「不登校」というサインに対して、短期宿泊・体験活動を通し、解決の方向性を見出す支援活動への参加者を募集しています。

不登校をともに考える会：保護者同士で情報交換し、交流を深める(8月4~5日)

地域やまびこ教室：児童生徒は調理や製作、スポーツ活動。保護者は情報交換交流会等のプログラム(1泊2日:7月31日~8月1日ほか、1日:9月27日ほか)

(問) 県立但馬やまびこの郷 079-676-4724



## 「大学コンソーシアムひょうご神戸」が子育て支援シンポジウムを開催(7月13日)

テーマ「大学と自治体の連携をどう進めるか とくに子育て支援をめぐって」

日時:7月13日(金)16:00~18:00 場所:ミント神戸17階

主催:大学コンソーシアムひょうご神戸(県内30大学、10短大等で構成)

講師:矢田立郎(神戸市長)、野上智行(神戸大学長)、清原柱子(兵庫県理事兼少子対策本部事務局長)

コーディネーター:山根耕平(神戸親和女子大学長)

参加費無料・先着100名まで

(問) 大学コンソーシアムひょうご神戸地域交流委員会 e-mail:conso-hyogo-c@kobe-shinwa.ac.jp / FAX:078-591-2465

## 平成19年度男女共同参画週間に「ひょうごフォーラム」を開催(7月11日)

講演:「をんなたちのチャレンジ」(講師:玉岡かおる(作家)) 日時:7月11日(水)13:30~16:00

場所:神戸クリスタルタワー3階

(問) 県立男女共同参画センター078-360-8550

## 不妊専門総合相談(無料)

医師、助産婦による不妊に関する悩み相談や不安不妊治療の情報提供などを実施しています。

電話相談(助産師)078-360-1388 開設:毎月第1,3,4土曜 午前10時~午後4時

面接相談 開設:毎月第2土曜(助産師)毎月第4水曜(産婦人科、泌尿器科医師)

要予約 078-360-8554 時間:午後2時~午後5時

場所:県立男女共同参画センター(神戸クリスタルタワー8階)

(問) 県健康増進課保健指導係 078-362-3250



## 川西市 - パレットかわにし 5周年フェスタオープン講座

愛称「パレットかわにし」で親しまれている川西市男女共同参画センター市民活動センターで、6月22日～24日、開設5周年と男女共同参画週間の記念事業として、5周年フェスタを開催。23日には、「子育てと私～ワーク・ライフ・バランス」をテーマにオープン講座を開催。劇団演陣による男性社員が育児休暇取得で苦悩する姿を演じた「育児道」や、育児休業を取得した男性県職員の体験談を通して育児、子育てについて考えました。



(問) 川西市男女共同参画センター 072-759-1856

## JAM(神戸市) - 発達に気がかりのある子をもつ親と子の会

子どもが元気に生まれて、1歳を過ぎた頃から何か違うと感じ、一生懸命関わろうとしても空回り。相談しても、「もう少し、様子を見てみましょう」とはっきりわからない。障害と言われることには辛いものがある。JAMはそんな状況下のお母さん、お父さん、家族が思いを語り合い、子どもが持っている力を信じて、その力を十分に発揮する子どもの成長を楽しみに力を合わせ前向きに生きていこうとする会です。と、代表の重松みさん。設立7年を経過し、子どもの成長と共に、その子に合った環境もアドバイスできるJAMに成長。動作法、親子遊び、JAMの子ども会など様々な活動を行っています。 JAMは平成18年子育て応援元気アップ賞(知事表彰)受賞団体です。



(問) JAM 078-591-3658

## 姫路獨協大学プレイルーム(姫路市)

姫路獨協大学のプレイルームが5月にオープン。この施設は、昨年4月に開設された医療保健学部学生の教育や所属教員の研究とともに、地域に開放し、子育て支援、発達障害支援の場とすることを目的としています。プレイルームには身体を使って遊べる遊具から絵本まで、多くのおもちゃを整備。また、スヌーズレンというオランダで開発された、障害を持つ人だけでなく、介護者も共に癒しの刺激を分かち合い楽しめる環境整備をした部屋(写真)もあります。(原則月1回第2土曜日に一般開放、要予約)



(問) 姫路獨協大 079-223-2211 /playroom@himeji-du.ac.jp

## 社会福祉法人ジェイエアイあいおい福祉会(相生市)

特別養護老人ホームの運営などの福祉事業を行っているジェイエアイあいおい福祉会では、出産・育児による職員の離職を防ぎ、雇用を継続することにより質の高いサービスを安定供給するため、県の事業所内小規模保育施設設置助成金を利用して、今年4月に事業所内託児施設「こすもす保育所」を開設しました。この託児施設は各事業所の共有駐車場に隣接しているため、出退勤時に無理なく利用でき、職員のニーズに応えられるよう保育時間(9:00～18:00)にも幅を持たせています。現在は臨時保育を含め5名の子どもを預かっており、世代を超えたふれあいを図るなど、今後、福祉会の本来事業との大きな相乗効果を生むことが期待されています。



(問) ジェイエアイあいおい福祉会 0791-24-0500

## 編集部からのお知らせ

「子ども未来通信」は、市町、企業、商工会議所・商工会、青年会議所、地域団体・NPO や県関係機関など、1,000 機関以上の皆様に原則として電子メールにより配信しています。新たに配信を希望される方は、下記アドレスに「子ども未来通信・配信希望」と送信ください。

兵庫県少子対策本部事務局(健康生活部少子局少子政策課): E-mail:shoshiseisaku@pref.hyogo.jp

# 子ども未来通信 7 月号

[http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08\\_000000002.html](http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08_000000002.html)



## 県婦人大会を開催（7月6日）

「和のこころの伝承」を今年度のテーマに、子育て支援や家族の絆を取り戻すことなどに取り組む県連合婦人会は、三田市内で兵庫県婦人大会を開催、970人が参加した。北野美智子会長は、「高齢化が進むなど会員は減少傾向にあるが、次世代の人々に私たちの心を伝え、取り組みを継承していく努力が大切な時期に来ている」とあいさつ。その後、井戸知事が講演し、「元気な兵庫は家族の元気から生まれる。家族の小規模化が進むなか、地域を擬似的な家族とも見立てながら、地域全体で多世代が共住し、交流し、協働する『地域三世同居』を進め、ともに元気な兵庫づくりを」と呼びかけました。



北野・県連合婦人会長 井戸知事

る」とあいさつ。その後、井戸知事が講演し、「元気な兵庫は家族の元気から生まれる。家族の小規模化が進むなか、地域を擬似的な家族とも見立てながら、地域全体で多世代が共住し、交流し、協働する『地域三世同居』を進め、ともに元気な兵庫づくりを」と呼びかけました。

（問）県男女家庭課 078-362-3169

## 「平成19年度ひょうごユニバーサル社会づくり賞」贈呈式を開催（7月26日）

ユニバーサル社会づくりに向けた個人・団体・企業などの先導的な実践活動を顕彰する「ひょうごユニバーサル社会づくり賞」贈呈式を兵庫県公館で開催。

このうち、子育て支援に関しては、播州そろばんを用いて多世代交流イベントを開催している㈱ダイイチや、子どもの遊び場を提供し、子育て支援に取り組んでいる神戸大学大学院ヒューマン・コミュニティ創造研究センター「あーち」や、障害のある子どもたちが生き生きと活動する日本ボーイスカウト尼崎第25団が受賞しました。



（問）県ユニバーサル課 078-362-4379

## 大学コンソーシアムひょうご神戸「子育て支援シンポジウム」を開催（7月13日）



県内の40大学等で構成する「大学コンソーシアムひょうご神戸」の主催により、子育て支援をめぐる大学と自治体の連携をテーマにしたシンポジウムを、神戸市内で開催。学生や保育士等約150人の参加者を前に、山根耕平神戸親和女子大学長の司会のもと、野上智行神戸大学長、矢田立郎神戸市長、清原桂子兵庫県理事兼少子対策本部事務局長がパネリストとして参加。野上学長からは、「情報の共有や連携のしかけ人の必要」、矢田市長からは、「命の大切さをみんなで問い直すことの大切さ」、清原理事からは、「現場の取り組みを重視し、行政と大学を交えた三者の関係を強化していくこと」などが提言され、子育て支援に係る大学と自治体の連携についてフロアも交えて活発な意見交換をしました。

（問）県少子政策課 078-362-4183

## サンTV「日曜さわやかトーク」～地域ぐるみの子育て支援～を収録（7月27日）

「地域ぐるみの子育て支援」をテーマに、地域で子育ての支援活動を行っている、北野ひとみ・子育て応援隊 ウィズ・ママ代表、河口 紅・NPO法人さんびいす理事長と井戸知事との対談が県公館において行われました。北野代表から、地域の皆で「まちの子育てひろば」等で子育て支援に取り組む日々の様子などが、河口理事長から、「学びの原点は遊び」をテーマにした芦屋川での環境学習活動や、お母さんが子育てを考えるきっかけにと情報紙を発行したことなどが紹介されました。井戸知事からは、「退職をむかえる団塊世代の男性たちや企業も、これからぜひまきこんでいきたいですね」と、共感の発言。8月12日(日)22時からサンテレビで放映予定です。



（問）県少子政策課 078-362-4232

## 国際ソロプチミスト淡路と県が子育て応援協定を締結（7月12日）



国際ソロプチミスト淡路（SI 淡路）と県は、洲本市内で協定を締結。SI 淡路は、これまで、第3子以上の新生児へ紙おむつを贈呈する活動をはじめ、島内の女子高生コースフォーラムや子どもの命を守る親子着衣泳教室、小学生以下の「親と子のふれあい広場」の開催などに取り組んでおり、木下寿子会長は、「児童虐待や子どもの自殺、いじめなどが社会問題になっているが、子どもたちにとって住みよい明るいまちを作るため、支援活動を行いたい」と、今回の協定締結を機に、一層の活動の充実を表明。

（問）国際ソロプチミスト淡路 [http://si-awaji.org/blog/2006/10/post\\_3.html](http://si-awaji.org/blog/2006/10/post_3.html)

## 甲南大学人間科学研究所と県が少子対策及び子育て支援推進協定を締結（7月22日）

甲南大学人間科学研究所と県は同大学において協定を締結。研究所は子どもの心理面や発達面についての親子相談や、親と子の遊び教室などの子育て支援に取り組んでいます。杉村芳美学長からは、「少子化が深刻となる中、大学と行政が協働した取り組みに大きな期待が寄せられている」とあいさつ、続いて、森茂起研究所長も「子どもを育てるための環境整備に向け、心理療法などの面から県と一層の連携を進めたい」と決意を述べました。



（問）少子政策課 078-362-4183

## 職員提案事業化テスト「人生まなび塾」がスタート（8月2日）



県の「職員提案事業化テスト」から出たアイデアをもとに、将来の就職を目指す学生やフリーターを対象に自立した若者を育てる「人生まなび塾」がスタート。渡久地広一氏（就職直結型技能訓練スクールセンター長）を「塾長」に迎え、計3回のプログラムにより、企業トップの人生体験を聞くとともに、瓦作りやホテルでのベッドメイクなどの職場体験を通じて、就業意識を高めることを目指します。

（問）青少年課 078-362-9076

## 男女共同参画協定企業の事例報告会を開催（7月11日）

男女共同参画週間を記念した「ひょうごフォーラム」が神戸市内で開催され、約350名が参加。男女共同参画企業20事業所との協定（計141事業所）締結後に行われた事例発表では、三ツ星ベルト㈱の子どもの学校行事や通院の付き添い等に利用できる「お星さま休暇制度」や、P & Gジャパン㈱によるNPO法人【仕事と子育て】カウンセリングセンターの設置支援による、仕事と子育ての両立支援の環境づくりなど、先進的な取り組みと、その効果が報告されました。



（問）県男女家庭課 078-362-3160

## 県民局レポート（但馬県民局） - 毎月第3日曜日を「但馬家庭の日」に -

家族・家庭の大切さを考え、家族を支える地域の取り組みを進めるとともに、地域ぐるみによる子育て支援の機運醸成を図るため、7月12日にこころ豊かな美しい但馬推進会議と県民局との共催により、「但馬地域家庭応援・少子化フォーラム」を開催。毎月第3日曜日を「但馬家庭の日」に決めました。神阪登茂子氏（「でき・たねプロジェクト」主宰）が、「子どもにとって、安心・安全・受容・肯定



などが促進要因、過度の期待や放棄・否定・無視などが阻害要因となる。お互いの「異見」を受け止め、対話ができる関係づくりが大切」と講演。今後、「あったかハートでつながる家庭・地域づくり」に向け、「但馬家庭の日」のPRに取り組めます。



## 東播磨地域子育てひろば交流会を開催（6月29日）

東播磨地域で子育て支援の活動を展開する3つのひろば（まちの子育てひろば・子どもの冒険ひろば・若者ゆうゆう広場 計255箇所）が一同に会し、「東播磨ひろば交流会」を開催。食育の実践をする、料理研究家の坂本廣子氏の講演では、「子どもの年齢や障害の有無にかかわらず、自分一人で料理ができた、美味しいと喜んでもらえたという実体験が、自分がかげがえのない存在であるという生きる力にもなる」と指摘。意見交換会では、3つのひろば間で、緩やかな連携を進めていくことが確認されました。



(問)東播磨県民局地域協働課 079-421-9291

## 東播磨地域少子化フォーラムを開催（7月19日）



子育てしやすい環境づくりを考える「東播磨地域家庭応援・少子化フォーラム」を加古川市内で開催。県立神出学園長でもある武庫川女子大学大学院小林剛教授が、「少子化問題と家庭応援」をテーマに講演。続いて、「子育て家庭を取り巻く問題点や地域における子育て支援のあり方」をテーマにパネルディスカッションを行

い、ゴスペルで親の輪を広げた活動などが披露されたほか、従業員への育児手当を手厚くした取り組み等の事例の報告がありました。

(問)東播磨県民局地域協働課 079-421-9291

## 西宮市でマタニティストラップの配布を開始

安心して子供を産み、ゆとりを持って健やかに育てるための家庭づくりなどを目指す国民運動「すこやか親子21」で課題としてあげられている「妊産婦にやさしい環境づくり」を推進するため、7月から母子健康手帳の交付時に、マタニティマークを印刷したマタニティストラップの配布を開始。表面には厚生労働省のマタニティマークを印刷し、裏面には「おなかに赤ちゃんがいます」の文字と、西宮市の理念である「子育てするなら にしのみや」の文字、市の花「さくら」と市の木「くすのき」を印刷。このストラップをつけた妊婦に対して受動喫煙の防止や、公共交通機関における優先的な座席の確保など、市民への普及啓発を行います。



(問)西宮市保健サービス課 0798-35-3310

## 「第9回親子あそび塾」参加者募集（8月31日締切）



親子の子コミュニケーションを深めるため、中播磨の自然の中で、親子キャンプを行います。日時：9月15日（土）～16日（日）【1泊2日】雨天決行 場所：夢さき夢のさと農業公園（姫路市夢前町神種 1281-2）参加者：小学生以上の子どもとその保護者30人 内容：全食自炊、テント設営、キャンプファイヤー、思

い出の品作りなど 参加費：大人（中学生以上）4千円 子ども2千円 申込締切：8月31日先着順

(問)中播磨青少年本部 079-281-9198

## 実務・教育連結型人材育成システム（デュアルシステム）平成19年度訓練生募集

若い世代の就職を支援するために、県立姫路高等技術専門学院にて、職業能力開発訓練を実施します。

募集対象：学校中退、卒業後未就職者、早期離転職者等で概ね35歳以下

募集：CAD/CAM（キャドキャム）コース、オフィスコースの2コース

募集期間：7月3日～8月7日（選考：8月8日） 訓練開始日：10月17日から

一年間 各定員：10名 (問)県立姫路高等技術専門学院 079-298-0900



## こどもの館読み聞かせ体験コース募集

子どもたちとの関わり方を絵本の読み聞かせを通じて学ぶ講座を開催。 日程：9月6日から11月18日までの計6回 場所：兵庫県立こどもの館 参加者：県内の0歳児から就学前の子どもと親で、祖父母の参加も可。

(問)兵庫県立こどもの館 読み聞かせ体験コース係 079-267-1153

**国際育児幸せ財団（神戸市）**

育児・教育・環境の国際的研究などに取り組む国際育児幸せ財団は、「あたたかい心を育てる運動」宝塚市民懇話会と共催で「近隣連携の育児支援システムの充実」をテーマに、7月14日に宝塚市でフォーラムを開催。日本赤ちゃん学会理事長・東京女子医科大教授の小西行郎氏の講演の後、地域連携に向けての意見発表会を行い、宝塚市の施策報告後、ワーキングママ等の意見や地域の活動例が紹介され、市民の活動や公益法人、企業、行政等が幅広く協働・連携する今後の方向性が議論されました。



（問）国際育児幸せ財団 078-200-3621

**ぶくぶくホーム（赤穂市）**

「NPO法人ぶくぶくほーむ」は、関西福祉大学の愛称“かんぶく”の“ぶく”と、幸福の“ふく”とから“ぶくぶく”と名付けました。同大学2年生の演習の一環として担当教員と学生、卒業ゼミ生などで運営しています。現在、実働1年半ですが、児童健全育成事業、子育て支援、不登校児相談支援、里親制度の啓発・普及、国際交流、調査・研究を主な活動とし、今年は、児童養護施設と連携した卒園児の自立、里親支援、中国未就学児の調査研究等に力を入れて取り組む予定です。



（問）ぶくぶくホーム 0791-43-2030

**(株)フェリシモ（神戸市）**

(株)フェリシモでは、フェリシモを創る一人ひとりの個人のライフステージやライフイベントを大切にし、組織と個人のより持続的で豊かなつながりを強めていきたいという考えのもと、育児や出産を支援する取り組みを行い、昨年度の育児休業取得者は22名、復帰後の時短勤務者は15名を数えます。中でもユニークな制度は1か月の長期休暇制度で、月1回各分野の専門家を招いた勉強会に参加すると、最短3年で1か月の休暇が取れるという制度で、未来の自分へのクリエイティブな休暇として奨励しています。仕事人であると同時に、親としての役割を果たしていくために、また職場で彼らを支える立場の人たちにとっても、そうした制度の充実が、今後の組織のあり方にとって大事だと考え取り組んでいます。



**神戸親和女子大学心理・教育相談室（神戸市）**



神戸親和女子大学では、学校生活の悩みのほか家族、発達・育児や性格・健康に関する悩みなど心理的な悩み全般を幅広く対象とした相談室を設置。カネリング、家族療法、箱庭療法、遊戯療法、発達相談、コンサルテーションなど様々な方法で相談を受け、年に1～2回は無料子育て相談にも応じるなど、地域に根ざし開かれた相談室として活動しています。（相談：月～金 10時～18時 受付：月～金 10時～17時）

（問）神戸親和女子大 078-591-1568

**編集部からのお知らせ**

「子ども未来通信」は、市町、企業、商工会議所・商工会、青年会議所、地域団体・NPO、県関係機関などや希望者に原則として電子メールにより配信しています。新たに配信を希望される方は、下記アドレスに「子ども未来通信・配信希望」とご送信ください。

兵庫県少子対策本部事務局(健康生活部少子局少子政策課)： E-mail:shoshiseisaku@pref.hyogo.jp

# 子ども未来通信 8 月号

[http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08\\_000000002.html](http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08_000000002.html)



## 県少子対策本部設置が 2 年間の取り組みを総括 (8 月 27 日)

兵庫県少子対策本部(本部長 井戸県知事)は、27 日に本部会議を開催し、17 年 8 月の本部設置以降、2 年間の取り組み状況を発表。同日の定例記者会見で知事は「昨年 6 月にスタートした出会いサポート事業はカップル成立が 321 組、成婚 1 組とまずまずの成果を上げている」、「18 年の出生数は、前年比 3.4%増の 49,573 人で、未来プランの目標 - 18~22 年の 5 か年の出生数 25 万人 - の毎年分 5 万人に少し足りなかった。19 年上半期はほぼ前年並みの 24,021 人で、年間にすると 4 万 8 千人に止まるが、18 年は婚姻数が前年より 2.6%増加しており、一般的には出生数が増えるので下半期の出生数に期待している」、「団塊ジュニア世代の出産が見込まれる今後、3 年から 5 年が重要な期間であり、現在の出生数の増加をベースとして少子対策を進めていきたい。」とコメントしました。

(問)県少子政策課 078-362-4183



## 「ひょうご防犯ネット」利用者の拡大に向け県警本部とマクドナルドが連携



兵庫県警察本部は、子どもが外出する機会が増え、事件に巻き込まれる危険も増える夏休み期間に、ひったくりなどの発生情報や不審者の出没状況などを携帯電話に電子メールで配信する「ひょうご防犯ネット」の利用を拡大するため、マクドナルドと連携。マクドナルドの県内 159 店舗に防犯ネットへの登録を呼びかけるステッカーを貼り、チラシを配布するとともに、登録者には携帯電話の画面にフライポテトの割引クーポンを配信し、画面を提示すると半額以下で購入できるキャンペーンを実施しました。(問)県警生活安全企画課 078-341-7441

## 県職員の提案を事業化 - 「人生まなび塾」、「まちの寺小屋プロジェクト」がスタート

### 「人生まなび塾」

学生やフリーターなどに経営者が自らの人生体験を語り、多様な職業を体験する機会を提供するなどにより、働くことの素晴らしさと魅力を伝え、自立を促す「人生まなび塾」がスタート。8 月 2 日に県公館で開催された開講式の後、(株)光洋製瓦(姫路市)で笹田奈都子代表取締役社長の講話に続き、姫路城の葺き替えを担当する瓦職人の技を体験しました。「人生まなび塾」は、あと 3 回、セミナーを開催し、その成果を若者の自立に向けた施策の本格展開につなげます。

(問)県青少年課 078-362-9076



### まちの寺子屋プロジェクト

団塊世代や高齢者等の知恵や経験を子育て支援に活かす「まちの寺子屋プロジェクト」も夏休み期間中にスタート。各地で地域団体・NPOや社会福祉協議会など16団体が様々な事業やイベントを実施し、うち、洲本市鮎原地区では、地域の大人たちが先生となり、子どもたちがふだんは経験できない乗馬や公衆浴場でのマナー学習などを合宿で体験。寺子屋プロジェクトでは、こうした活動の実践発表会を開催し、今後の少子対策や団塊世代対策につなげます。

(問)県少子政策課078-362-4232



## 県庁インターンシップで学生を受入 (7 月 30 日 ~ 8 月 10 日)



若者が働くことへの関心と意欲を高め、主体的に職業を選択できるよう支援するため、県庁で 7 月 30 日から 10 日間、大学生、高校生らインターンシップで受け入れ。「職場体験を通じて県政を理解し、今後役に立てください」と、知事の歓迎あいさつの後、42 名がそれぞれの職場で県の仕事を体験しました。少子対策課で職員と机を並べて電話の応対や資料作成を体験した高江祐二さんは、「職員の皆さんが少子対策のために様々な施策に取り組んでいる姿を目の当たりにし、貴重な体験ができました。」と感想を述べました。



## 出会いサポートセンター・若者交流会 in 香美を開催（8月19～20日）

ひょうご出会いサポートセンターが香美町と連携し、8月19日から1泊2日の日程で若者交流会を開催。男女とも各20名が参加し、誰でもすぐ楽しめるカナダ生まれのニュースポーツ「キンボール」で汗を流した後、海を眺めながら香住の海の幸や但馬牛のバーベキューを楽しんだり、「余部鉄橋」や日本一高い場所にある「余部埼灯台」を訪れるなど、ロマンティックな香住の魅力を満喫し、7組のカップルが誕生しました。

（問）ひょうご出会いサポートセンター 078-367-3810



## 「ふるさと体験留学」を神河町で実施（7月31日～8月13日）

都会の小中学生が農山漁村に体験留学し、自立心、規律や他人を思いやる心を養う「ふるさと体験留学事業」がスタート。7月31日に神河町地域交流センターで開村式が行われた後、24人の子どもたちが14日間にわたり、農家でのホームステイ、溪流遊びなど、地域の人々との交流や自然体験を行いました。

（財）兵庫県青少年本部 078-360-8590



## 地域活動体験研修（保育所・児童養護施設コース）を開始（8月20日）

県と市町の職員が保育所や児童養護施設での体験実習を通じて、子育ての楽しさや少子化問題への理解を深める地域活動体験研修の開講式が県自治研修所で行われました。開講式では県・市町職員あわせて43名が参加し、森・県少子局長から少子化の現状や課題、行政の役割についての講義を、粟村・県児童課課長補佐から保育所と児童養護施設の役割と現状について説明を受けました。8月下旬から保育所、児童養護施設18か所で実習が開始されます。



（問）兵庫県自治研修所 078-752-1321

## 南あわじ市縁結び事業 - 「ハッピーマジックの会」会員募集中（8月20日）

南あわじ市縁結び事業推進協議会（会長 中田勝久市長）は、若者の出会い・交流の場として「ハッピーマジックの会」を8月20日に創設。幸せな出会いは理屈でなく「ハッ！」とするもので、その不思議な力（マジック）をみんなに呼び寄せたいとの想いをネーミングに込めました。あわせて、縁結びをサポートするため、市民、企業、事業所や地域団体が一体となって「ハッピー応援団」を結成し、会員増とネットワーク強化に取り組んでいます。

（問）南あわじ市少子対策課 0799-44-3040



## 南あわじ市・子育て応援シンボルキャラクターと愛称を決定



今年4月に少子対策課を新設し、子育て応援を本格的に進めている南あわじ市は、子育て応援シンボルキャラクターと愛称を公募。中高生も参加した審査の結果、「ゆめるん」に決定し、7月18日に公表しました。黄色い前髪は太陽とうず潮をイメージし、美しい海の色のおくるみに包まれた赤ちゃんの誕生を祝う気持ちが込められています。

## 川西市、女性チャレンジひろばオープン（8月20日）

川西市が市男女共同参画センターに「かわにし女性チャレンジひろば」を開設。出産、育児や介護等により、一度退職し、再び就職や地域活動等にチャレンジする女性などを総合的に支援するワンストップでの情報提供・相談等を行っています。なお、女性チャレンジひろばは、県が平成18年6月に「ひょうご女性チャレンジひろば」を開設以降、順次、尼崎市、宝塚市、加古川市、朝来市、西宮市、赤穂市、伊丹市、神戸市、姫路市、養父市、川西市（以上、11市）で開設されています。

（問）県男女家庭課 078-362-3160



## 高砂市地域子育て支援ふれあい大会を開催（8月26日）

6月に曾根小学校に脅迫状が送り届けられ、子どもたちの安全が脅かされる事件が発生した高砂市で「地域における子どもの見守り活動」をテーマに地域子育てふれあい大会が開催されました。開会あいさつで、北野美智子・高砂市地域子育て支援ネットワーク会長が「昔は地蔵盆などで地域が一つになっていたが、今後は、子育て支援で地域が一つになっていく必要がある」と訴え、基調講演で清原・県理事兼少子対策本部事務局長が



「地域ぐるみで見守り活動等の子育て支援を進めるとともに、こども家庭センターなどのセーフティネットへつないでいくことが重要」と発言。また、パネルディスカッションでは「見守り活動は地道な活動だが、各団体が連携して継続していくことが重要である」などの意見や、子どものネットワークから親のネットワークができた事例、子どもたちをほめて育てている事例などが紹介されました。

（問）高砂市教育委員会 生涯学習課 079-443-9056

## 家族の絆づくりを応援します！県民局レポート ～阪神南県民局・家庭再生事業を展開中～

合計特殊出生率が県平均値を下回り、少子化への対応が大きな地域課題となっている阪神南地域では、頻発する児童・生徒の不登校や虐待事件に対する取組みを強化するため「家庭再生事業」を総合的に推進し、家族の大切さ、家庭を地域全体で支える意識の浸透を目指しています。今年度は、夏休み期間を中心に「ほのぼの家族エッセー」を募集し、寄せられた子どもたちの家族への思いや、子育て世代、子育て経験世代からの応援メッセージを広く発信し、家族の絆づくりを応援します。また、来年1月に開催する「阪神南“家庭元気アップ”フォーラム」ではエッセー優秀作の表彰・発表や、家庭支援・少子対策の先進事例発表、パネルディスカッションなどを予定しています。



（問）阪神南県民局地域協働課 06-6481-4397

## 「しごとと子育てを両立できる職場づくりのための企業支援マニュアル」を発行（8月6日）

県は、次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の策定や実践に参考となる事業主の取組事例や仕事と子育ての両立を支援する制度や助成金等を掲載した「仕事と子育てを両立できる職場づくりのための企業支援マニュアル」を発行。希望者に配布するとともに、県ホームページにも掲載しています。 [http://web.pref.hyogo.jp/hw09/hw09\\_000000049.html](http://web.pref.hyogo.jp/hw09/hw09_000000049.html)

（問）県少子対策課 078-362-4186



## NPOと行政の子育て支援会議「子育て支援メッセ」参加者募集（9月10日）

NPOと行政の子育て支援会議では、兵庫自治学会と共催でNPO・企業・行政が一同に集い、子育て支援に関する意見交換や活動発表を通じた交流を図る「子育て支援メッセ」を開催します。

日時：9月10日(月)14:30～18:00 場所：神戸市勤労会館7F大ホール（三宮駅から徒歩5分）

参加費：200円（問）NPOと行政の子育て支援会議事務局（NPO法人さんびいす内）0797-22-8896

## パートタイム労働セミナー参加者募集（9月12日）

子育てと仕事の両立支援を目指す就職希望の女性を応援するマザーズ・ハローワークの取り組みや、パートタイム労働に関する税金、保険制度等について専門家が分かりやすく紹介します。

日時：9月12日(水)13:30～16:30 場所：県立男女共同参画センター・セミナー室 神戸市中央区東川崎町1-1-3 神戸カヌービル8階 申込先着順（定員になり次第締切）、一時保育あり（要予約） 参加料：無料

（問）県少子対策課 078-362-4186 E-mail：shoshitaisaku@pref.hyogo.jp

## 団体、企業、大学等の活動紹介

### あさぎり病院（明石市）

医療法人吉徳会・あさぎり病院は今年4月に院内保育施設に、地域の病後児も受け入れる「なかよし保育園」を開設。看護師が保育スタッフとして参加し、病院ですぐに診療を受けることができるなど、院内保育施設のメリットを活かして病後児保育を実施しています。リーダーの片山真理子さんは、「今は病後児のみを受け入れており、利用する際に診断書が必要であるなど、まだまだ課題はありますが、利用者からは、仕事を休めない時のセーフティネットとして喜ばれています。」と語りました。

（問）あさぎり病院 078-912-7575

**NPO 法人 おはなしくれよん（姫路市）**

「おはなしくれよん」（川石雅代 代表）は、子どもから大人までの老若男女を対象とした“おはなし会”を通じて子どもたちの想像力の育成を図り、大人たちには人生の懐古や癒しを提供しています。学校、公民館や男女共同参画センターなどで、お話や絵本の読み聞かせ事業、創作絵本事業、啓発・普及事業などを実施し、夏休みには、子どもたちの豊かな想像力を生かす手作り絵本講座を開設しています。



（問）おはなしくれよん 0792-35-0238

**三和商店街振興組合（尼崎市）**

尼崎市の三和商店街振興組合は、8月8日に子育て世帯を対象に、親子で安心して買い物や遊びができる「キッズスペース」を三和本通商店街のM I Aステーション(コミュニティスペース)内に開設し、買い物客などから「子どもを預けて落ち着いて買い物ができるようになった」と好評。同組合の宮西理事長は「商店街の地域貢献活動の一環として設置したので多くの方がたにご利用頂きたい。将来は授乳室の設置も考えたい。」との意向です。/施設利用：午前10時～午後6時(無料) / 託児サービス：毎週水・金曜日 午前10時～午後2時(300円～/時間)



（問）鹿島 080-1425-8198

**兵庫県建設業協会淡路支部（洲本市）**

子どもがたちが安心して暮らせるまちづくりに貢献しようと、県建設業協会淡路支部は、所属63社の業務用車など約100台に「子ども110番の車」のステッカーを貼り、営業の移動の際などに子どもを守るパトロールを開始。社員は事前に洲本警察署で開催された講習会に出席し、子どもに助けを求められた時の対処法などを習得。不審者に声をかけられたり、子どもが助けを求めてきた際には、警察に通報するとともに、子どもを保護する活動を実施しています。



（問）県建設業協会淡路支部 0799-22-0888

**富士通テン株式会社（神戸市）**



富士通テン(株)では、働く親の素晴らしさ、働くことの大切さを子どもたちに伝えるため、工場見学やオーディオ試聴会など、カーオーディオメーカーならではのイベントを行う「子ども参観日」を実施して親の働く姿や職場を子どもたちに見せており、今年は8月1日に行いました。この中で、子どもたちが3D-CADを操作したり、海外とのテレビ会議に参加したり、自分の名前が印刷された名刺を親の上司や同僚と交換するなどの体験をしました。

富士通テン(株)は、次世代育成支援対策推進法に基づく認定企業です。（問）富士通テン(株) 078-682-2170

**神戸大学 - 男女共同参画シンポジウム開催**

神戸大学は、7月30日に女性研究者が活躍できる環境づくりをテーマにシンポジウムを開催。中央大学の広岡守穂教授が、実体験から「妻の自己実現を夫がバックアップする家庭内の協力が大切」と指摘し、神戸大学の相馬芳枝特別顧問が、女性科学者の比率を上げる対策の現状分析と今後の取り組みなどを報告。パネルディスカッションでは、男性の育児休暇の取得状況や教授になった女性の思いなど、男女共同参画社会の実現に向け活発な意見交換が行われました。



（問）神戸大学男女共同参画推進室078-803-5017

**編集部からのお知らせ**

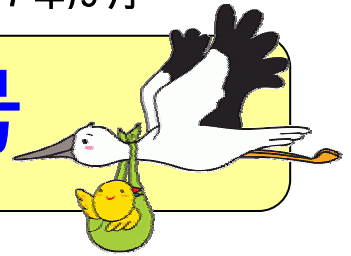
「子ども未来通信」は、市町、企業、商工会議所・商工会、青年会議所、地域団体・NPO、県関係機関などや希望者に原則として電子メールにより配信しています。新たに配信を希望される方は、下記アドレスに「子ども未来通信・配信希望」とご送信ください。

兵庫県少子対策本部事務局(健康生活部少子局少子政策課)： E-mail:shoshiseisaku@pref.hyogo.jp



# 子ども未来通信 9 月号

[http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08\\_00000002.html](http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08_00000002.html)



## 県立こども病院「小児救急医療センター」開設（9月30日）

県は、救命率の向上を図るため、県立こども病院本館西側に県内初の小児救急医専用のICU（集中治療室）を持つ「小児救急医療センター」を開設。開設式で、井戸知事は、「県下のこどもたちの命を守る砦の一つができた」と挨拶しました。同センターは、小児集中治療室4床、救急一般病床6床をもつ小児救急医療施設で、県下の小児救急医療体制の中核として24時間体制で、小児救急患者の受け入れに当たります。また、大災害時に多数の患者の受入ができるように、待合室等に酸素配管などを有し、多くの患者を収容できるようになっています。

（問）兵庫県こども病院 078-732-6961



## 県・市町、NPOと企業による子育て支援メッセを開催（9月10日）



日本マクドナルド（株）

行政、NPOと企業等がフラットな立場で子育て支援を考える「子育て支援メッセ」が、NPOと行政の子育て支援会議・兵庫自治学会の共催により150名の参加を得て、神戸市内で開催。清原県理事兼少子対策本部事務局長による「子育て支援関連団体やNPO、企業が互いに連携を深め、子育て支援の輪を広げる機会に繋げていくことが必要」とのあいさつに続き、グループディスカッションで、具体的な連携方策について意見が交わされた後、NPO、企業や行政が出展したブースを見ながら、情報交換が活発に行われました。

（問）県少子政策課 078-362-4232

## 女性医師再就業支援センターがオープン（9月3日）

県と兵庫県医師会は、結婚や出産などで離・退職した女性医師が医療現場に復職できるよう支援するため、「女性医師再就業支援センター」を県医師会館（神戸市）内に開設。再就業を目指す小児科と産科の女性医師（各5人を予定）を対象に、それぞれの希望に応じ、医療機関で約100時間（約1か月）の研修を実施するほか、子どもの保育等に関する相談も受付。また、県医師会で開設しているドクターバンク事業との連携により、再就業先の調整なども行います。

（問）女性医師再就業支援センター078-231-4114

## ワークライフバランスをテーマに男女共同参画審議会を開催（9月6日）

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）をテーマに、男女共同参画審議会第2回会議が神戸市内で開催され、「男女共同参画社会を実現していくには、ワーク・ライフ・バランスの実現が不可欠」、「職場での男女共同参画は育児休業制度や均等法の改正など制度的には整ってきており、それをどのように運用していくかの段階になっている」など多数の意見が出ました。また、具体的な取り組みとして、「男性に一週間の育児休業を義務づけるなど制度を少しでも動かしていくことが重要」、「県が率先し、モデル職場となるべき」等の提案がなされました。

（問）男女家庭課 078-360-3160



## “ひょうご子育て応援の店”協力店舗の募集を開始（9月10日）



店舗用ステッカー

子育て世帯を社会全体で支援するため、近畿各府県と連携して、子育て世帯を対象に料金の割引、ポイントの加算、景品プレゼントをはじめイベントの開催、プレイルールの整備などの企画を店舗が行う「ひょうご子育て応援の店」の募集を9月10日から開始。店舗によるサービスの開始は、11月を予定しています。協力店舗の申し込みは、ホームページをご覧ください。

（問）県少子政策課 078 362-4232 [http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08\\_000000024.html](http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08_000000024.html)

## 第15回地域女性団体ネットワーク会議を開催(9月20日)

婦人会など、地域で様々な分野で活動している女性団体が連携し、子育て支援に積極的に取り組んでいくため、第15回地域女性団体ネットワーク会議を開催。各団体から、地域での子育て支援の現状や課題などが報告され、意見交換が行われるとともに、今後も子育て応援ネットを推進していくことや全県フォーラムを開催(11月6日、公館)することが決定されました。



(問) 県少子対策課 078-362-4185、県男女家庭課 078-362-3169

## 子どもの冒険ひろばでプレーリーダー体験講座を実施(7月20, 21日/8月31日, 9月1日)

「子どもの冒険ひろば」は、子どもたちが公園や空き地などを舞台に、プレーリーダーの見守りのもと、“自分の責任で自由に遊ぶ”ことを基本に、禁止事項をできる限りなくした遊び場です。(財)兵庫県青少年本部は、このプレーリーダーの体験入門講座を明石と淡路の2か所で実施し、実際にひろばへ出て子どもと一緒に遊びを実習。参加者からは、



「ひろばの楽しさを実感した」、「これからもひろばに関わってみたい」といった声が聞かれました。このような研修会などを通じ、子どもたちがいきいきと遊べる場所を今後も提供していきます。

(問)(財)兵庫県青少年本部 078-360-8581

## 東播磨父親フォーラムを開催(9月2日)

東播磨県民局は、「世界のおもちゃで遊ぼう、おもちゃの与え方と子育てのコツ」をテーマに加古川市内で父親フォーラムを開催。岩城敏之(有)キッズいわさき代表が講演で、「賢い子どもを育てるコツは、童話や童謡等、祖先の優れた文化を聞かせる、見せる、真似させること。人間らしさをつかさどる前頭葉の発育を阻害するので、TVゲームは9才まで避けよう」、「しっかり遊び、父親の文化を伝えよう」など参加者にアドバイスした後、おもちゃは離乳食という考え方のもと、家の形になる積み木など、子どもが頭と身体を使いながら、日常や宇宙に興味を持たすよう工夫してあるドイツの玩具や世界の絵本等が紹介されました。



(問) 東播磨県民局健康福祉事務所 079-421-9292

## 県立こどもの館「父と子の一泊ふれあい大会」を開催(9月15、16日)



県立こどもの館は、父親に積極的な子育て参加や活躍の場を提供し、子どもとのふれあい体験を通して、父親の役割について認識を深め、親子の絆を一層深めることを目的に、県立嬉野台教育センターで「父と子の一泊ふれあい大会」を開催。この大会は、両親教育にも取り組んでいる同センターと、子どもの体験活動を専門とする県立こどもの館との共同で実施され、父と子のラブレターと工作の交換等が行われました。

(問) 県立こどもの館 079-267-1153

## 県立山の学校「キャリア教育」(体験!男みがき塾)(9月18日)

県立山の学校では、キャリア教育の一環として、理髪体験を実施。「KITAO Ruhe」経営者の北尾誠祥氏を講師に、生徒2名がモデルになり、プロの技を身近で見学した後、人形を使って、生徒一人一人がカットに挑戦。初めての体験でも、匠の技の手ほどきを受け、まずまずの出来映えでした。その後、理髪業の最新事情を学ぶなど、理髪業への認識を深めることを通じて、職業全般に対する意識の高揚を図りました。



(問) 県立山の学校 0790-62-8088

## 南あわじ市少子対策・子育て支援フォーラムを開催（9月8日）

南あわじ市は、地域ぐるみで子育てを支援するネットワークづくりをテーマに、「少子対策・子育て支援フォーラム」を開催。清原県理事兼少子対策本部事務局長が基調講演で、「少子対策を進めるには行政だけでは限界があり、企業を含め地域の人々が心を一つにすることが必要」と呼びかけた後、パネルディスカッションで、中田勝久市長が、「人口減に特效薬はないが、定住化・結婚促進によって人口が増えると産業が活性化し、市の発展につながる」と発言するなど、地域ぐるみの取り組みに向け活発な意見交換が行われました。あわせて、市の公募で決定された子育て応援シンボルキャラクター「ゆめるん」が約600名の参加者に披露されました。



(問)南あわじ市健康福祉部少子対策課 0799-44-3040

## 播磨町立図書館 - 子育て家庭等に無料宅配サービス

播磨町は、「本を読みたいけれど、図書館まで行くことができなくて」- その声に応えて、無料宅配サービスを本年4月より開始し、育児中など、来館が困難な町民にサービスを提供しています。図書館スタッフは、「件数が多く疲れますが、図書館へ戻る頃はたくさんの笑顔をもってこちらが元気になります。私たちも笑顔で頑張りたいです」と、話しています。



(問)播磨町立図書館

## 家族の絆づくりを応援します！県民局レポート ～阪神北県民局～金太郎プロジェクト

阪神北地域では、川西市に伝わる金太郎伝説にちなんで、やさしく、たくましい子どもを育む「たくましい子どもを育てる金太郎プロジェクト」に取り組んでいます。その一環として、8月19日に県民局と管内4青年会議所等が協働し、第1回金太郎チャレンジカップ「キンボール大会 in 川西」を開催しました。また、11月14日に地域家庭応援フォーラムを開催し、「食」をキーワードに家庭のあり方や学校、地域の役割などについて、地域ぐるみの子育てについて考えます。

(問)阪神北県民局地域協働課 0797-83-3136

## カンガルーネット事業のサポーターを募集中

(社)兵庫県看護協会は、核家族世帯が増え、地域に頼れる人が少ない現状の中、保育園等に通う子どもの急病時や病気回復期などに、サポーターが保護者の代わりに受診に付き添ったり、子どもを自宅等で預かるカンガルーネット事業（ひょうご病児等緊急サポートネットワーク事業）を実施しています。現在は尼崎市と姫路市で実施しており、今後、他市にも拡大を予定。同協会では、サポーターとして、看護職・保育士等の有資格者、子育て経験のあるママさん（登録後に研修要）を募集しています。



サポーター研修の様子（姫路市内）

(問)県看護協会 078-341-0190

## 「子育てファミリー応援ボランティア講座」の受講者募集

子育て応援のボランティアを養成するため、講演やワークショップ、子どもの遊びについての実践指導を行います。定員：30名程度 参加費：(無料、先着順)

- ・10月1日(月): 宝塚市立男女共同参画センター
- ・11月22日(木): 加東市福祉センター
- ・10月18日(木): 兵庫県姫路総合庁舎内
- ・11月30日(金): 南あわじ市三原市民センター
- ・10月25日(木): 丹波市柏原福祉センター
- ・12月13日(木): 兵庫県加古川総合庁舎
- ・11月19日(月): 兵庫県民会館
- ・12月20日(木): 尼崎市立労働福祉会館 (西播磨、但馬地域は開催済)

(問)県少子対策課 078-362-4185

## 「女力をつける！女性のためのカウンセリング講座の受講者募集（10月18日～）

多くの女性に共通する問題について学び、自分自身を見つめなおし、これからの生き方を考えます。日時：10月18日～12月20日毎週木曜日 13:30～16:30 場所：県立男女共同参画センター 講師：女性問題カウンセラー、女性弁護士等 定員：女性50名 受講料：3,600円(全10回分) 締切日：10月6日

(問)兵庫県立男女共同参画センター 078-360-8550



**NPO 法人さんぴいす・ちょこっとカレンダー（芦屋市）**

NPO 法人さんぴいすは 10 月中旬を目処に子育て中の母親向けに、携帯メールでの子育て情報などを知らせる「ちょこっとカレンダー」を開始します。あらかじめ登録した利用者に、市内の児童館や図書館等で行わ



れる子育てイベント情報などを前日、または当日朝に日時、場所等最低限必要な情報をコンパクトにまとめて配信。子育て中の母親を交えたモニター会議では「地域のお店の情報も一緒に配信されたらとても便利」などの意見も多く、行政情報に加え、地域のお店・企業ともタイアップし、子育て中の母親に便利な情報を発信し続けたいと思います。まずは芦屋市でモデルをつくり、他市町でも進めていけるようパッケージ化したいと考えています。

（問）NPO 法人さんぴいす 0797-22-8896 info@sanps.com

**原始人会・男女ふれあい交流会（加西市）**

原始人会は、平成12年10月に加西市万願寺地区の活性化を目的に地元有志で結成。9月16日、活動の一環として、加西市北端で過疎化が激しい西在田地区の男性と、神戸・明石を中心とした女性総勢40名（男女とも20～40代）により「男女ふれあい交流会」を開催し、参加者は農作業や「くど・釜」を使ったご飯炊き等田舎生活を体験。同会では、今回の経験を基に、新たなアイデアを折込み、今後も広がりのある出会いの場づくりを行うことで意見一致しました。



（問）原始人会0790-44-0150

**（医）医仁会譜久山病院（明石市）**



（医）医仁会譜久山病院は、女性が90%を占める職場環境です。結婚、出産、育児に伴う離職を防ぎ、経験豊富な職員の雇用を継続することが、高い医療を提供することにつながると考え、院内に職員用保育所を設置し、専任保育士が24時間保育を実施しています。職員の勤務についても、ライフスタイルに合わせ、希望に応じた就業時間の短縮や、正社員からパート、パートから正社員の変更が可能で、産休、育児休暇を取りやすく、復職しやすい職場環境づくりを進めています。また、トライやる・ウィークも積極的に受け入れています。

（問）譜久山病院 078-927-1514

**（有）サント・アン（三田市）**

（有）サント・アンは、洋菓子製造小売業を営む会社です。当社では、「仕事と家庭の両立支援」への取り組みとして、育児休業制度のほか、パートタイムから社員への登用や、再雇用などを行っています。また、パートタイム従業員にも、「OJT」と呼ばれる人事評価システムにのっとして昇給・昇進が行われ、従業員一人ひとりの仕事ぶりを把握し、職務や等級ごとに、職務要件、能力要件、意欲・態度要件等を明示し、自発的な仕事への取り組みを促しています。また、インターンシップ、トライやるウィークの受け入れも行い、就業希望者も出ています。



（問）サント・アン 079-564-5383

**編集部からのお知らせ**

「子ども未来通信」は、市町、企業、商工会議所・商工会、青年会議所、地域団体・NPO、県関係機関などや希望者に原則として電子メールにより配信しています。新たに配信を希望される方は、下記アドレスに「子ども未来通信・配信希望」とご送信ください。

兵庫県少子対策本部事務局(健康生活部少子局少子政策課)： E-mail:shoshiseisaku@pref.hyogo.jp